

定例調査

北陸の産業天気図

自主調査

危機のたびに試される企業のレジリエンス
～コロナ禍と中東情勢から考える北陸企業の危機対応～

企業紹介

株式会社 今井金箔

北陸歴史探訪

第21回 織田信長の越前制圧と一向一揆

【越前焼】しのぎ片口黒漆、しのぎぐい呑み溜漆、
溜漆ビアマグ、飴漆ビアマグ
土のもつ粘りを生かし、極薄に成形した酒器。
漆による仕上げが、新たな表情を添えている。



伝統を超えて、越前焼の新たな可能性を拓く

えちぜんやき 越前焼 × かさつじ けんじ 司辻 健司 [福井県丹生郡越前町]

日本六古窯^{ろっこよう}の一つとして数えられる越前焼は、鉄色を帯びた素朴で渋みのある風合いを特徴としています。耐火性に優れた土を使い、厚手で丈夫なことから、壺^{かめ}や甕、すり鉢といった生活雑器を中心に発展しました。その越前の地で作陶を続ける司辻健司さんは、従来の器づくりにとどまらず、これまで難しいとされていた薄づくりや色釉など、新たな表現にも果敢に挑戦し続けてきました。さらに、越前漆器や越前和紙などの伝統工芸品や、さまざまな地域産業とのコラボレーションにも積極的です。眼鏡産業が持つレーザー加工技術を活用したロゴ入れを手掛けるほか、地元フレンチレストランからの注文で皿も制作。越前打刃物のナイフとともに使われています。伝統を大切にしながらも、「伝統と真逆のこともやりたい」と語る司辻さん。型にとらわれない自由な発想から、今後どのような作品が生み出されるのか、目が離せません。

※瀬戸焼、信楽焼、備前焼、常滑焼、丹波立杭焼、越前焼の6つ



薄づくりは、高度なるくろ技術に加え、焼成温度の緻密な調整や、乾燥と削りを繰り返す繊細な作業によって支えられている。

ひかりがま 光窯 司辻陶房

福井県丹生郡越前町小曾原20-2-2
TEL : 090-9960-4162
Mail : kasatsuji105@gmail.com



司辻 健司

略歴

- 1973年 福井県越前町（旧宮崎村）生まれ
- 1998年 第37回 日本現代工芸美術展初入選
第30回 日展初入選（以来23回入選）
- 2003年 第42回 日本現代工芸美術展 現代工芸賞受賞
- 2013年 第52回 日本現代工芸美術展 本会員賞受賞
- 2014年 第55回 全国推奨観光土産品審査会 経済産業大臣賞受賞
- 2016年 第55回 日本現代工芸美術展 審査員
- 2018年 全国伝統的工芸品公募展 経済産業大臣賞受賞
- 2019年 第58回 日本現代工芸美術展 現代工芸副理事長賞受賞
- 2022年 伝統工芸士認定

現在、一般社団法人現代工芸美術家協会本会員、公益社団法人日展会友として活動している。地域産業との協働による作品制作に取り組むほか、東京の百貨店やゴディバ、ビームスなどからのオーダー制作も手掛け、高い評価を得ている。



●薄づくり盃、冷酒器

約2年にわたる試行錯誤の末に完成させた厚さ1〜2ミリの盃は、審査会での受賞を果たし、話題を呼んでいる。



●(手前)陶漆紙タンブラー 黒漆金

漆と青海波の和紙をあしらひ、洋酒を楽しむために考案されたタンブラー。



●平皿・カップ

焼成方法や釉薬の調合に工夫を重ね、当地の土では困難とされていた色物や平らな器形の制作を実現した。



●陶漆コーヒーカップ&ソーサー

表面に施した意匠と黒漆の艶が調和し、風格ある佇まいが際立つ。

Instagramは
こちらから

